九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

石器生産と消費形態からみた北部九州弥生社会の展開過程

森，貴教

https://hdl.handle.net/2324/1654593

出版情報：九州大学，2015，博士（文学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

（様式６－２）

氏　　名	森　貴教
論　文　名	石器生産と消費形態からみた北部九州弥生社会の展開過程
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　宮本　一夫 副　査　　九州大学　　教授　　坂上　康俊 副　査　　九州大学　　教授　　遠城　明雄 副　査　　九州大学　　准教授　辻田　淳一郎

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

北部九州は、弥生時代時代の始まりとともに朝鮮半島無文土器文化との文化接触の中、水稲農耕とともに磨製石器を受容している。本論文はこの様な磨製石器の生産と消費の変遷過程を複数の器種から検討するとともに、朝鮮半島南部の石器生産と消費との比較を行っている。また、弥生中期後半から石器生産に代わって鉄器生産が始まっていく過程を、鉄器の加工具である砥石の分析と木製斧柄から明らかにしている。そしてこの様な石器から鉄器への転換過程を示すとともに、石器生産と消費過程を中心にしながら、部族社会から首長制社会への転換を実証的に明らかにした論文である。

本論文は全体で６章からなっている。第１章では、北部九州弥生時代の社会展開の学史をまとめた上で、朝鮮半島無文土器時代（青銅器・初期鉄器時代）と弥生時代の石器研究の動向をまとめるとともに、問題の所在を明らかにし、それを解決するための資料や方法を、理論的枠組みを整理しつつ示している。

第２章では、朝鮮半島南部の無文土器時代の石器生産・消費について、各種磨製石器の分析から実証的に論じ、石器生産と消費の段階的な変化過程を類型化して示している。

第３章では、北部九州の石器生産と消費過程に関し、両刃石斧、片刃石斧、石庖丁から分析し、通時的な生産と消費の変化過程を明らかにした。それは大きく二つの画期によって示すことができ、弥生前期末と弥生中期から後期に画期が存在するとする。

第４章は、弥生中期から後期への画期を農耕具の鉄器化と集落間のネットワークの変化から示していく。そこでは、石器から鉄器への変化を鉄器生産に用いられる砥石から示し、分析していくものである。また、鉄器に伴う木製斧柄の分類と型式変化から鉄製斧の出現時期を実証的に示していく。それらの分析の結果、弥生時代の鉄器化が弥生中期後半にあることを明らかにしている。

第５章は、これまでに明らかにしてきた朝鮮半島南部と北部九州での石器生産と消費形態を比較検討し、そこで示した画期の社会的な意味を論ずるとともに、北部九州弥生社会の特質を明らかにしていく。

終章では、石器生産と消費形態、さらには鉄器生産に見られる鉄素材獲得の長距離交易の存在から、社会構造の発展過程を明らかにした。すなわち、石器生産の自給型から重点生産型という変化を示す部族社会が、弥生開始期から中期前半に認められる。そして弥生中期後半以降は、鍛冶による鉄製農耕具の生産とともに、長距離交易を司る首長の出現に見られるような首長制社会へと変化したことを示した。

このように、本論文は北部九州の弥生時代のみならず、弥生文化に影響を与えた朝鮮半島南部の

磨製石器を実証的に分析するとともに、石器生産と消費システムの枠組みから比較検討した初めての実証的論文である。さらに鉄器化の過程を砥石や木製斧柄から明らかにし、消費システムの転換を示すとともに、社会構造の変化にまで言及した、これまでにない優れた論文であり、学界に大きく裨益するものとなるであろう。

以上から、本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるにふさわしいものであると認めるものである。